



第 3 部

合 同 演 奏

男声合唱組曲「富士山」

- | | | | |
|-----|--------|----|-------|
| I | 作品第壹 | 作詩 | 草野心平 |
| II | 作品第肆 | 作曲 | 多田武彦 |
| III | 作品第拾陸 | 指揮 | 福永陽一郎 |
| IV | 作品第拾捌 | | |
| V | 作品第貳拾壹 | | |

MESSAGE

作曲家 多田武彦

第2回関西六大学合唱演奏会開催おめでとうございます。

近頃、日本のいたるところで、また学校や職場などいろいろなところで、合唱熱が復活して来たことをよく耳にします。同時に、FM放送へのリクエストやレコードの売行のなかで、合唱音楽に対し、沢山の人が深い関心を示していることもよく聴きます。一方クラシック音楽以外の分野でも、合唱がいろいろな形で採り上げられています。

終戦後勃興した合唱熱が、一時低調になったものの、意外といろいろなところで根強く生きていて、それが、こういう時代に、再び、しかも巾広く芽を出しはじめて来たことは、それだけ日本の音楽的水準が、一握りの人たちの中ではなく、広い層の中での高まりを見せていることを物語っており、大へん喜ばしいことだと思っています。

昭和の初期も、終戦後も、合唱が盛んになったとき、学生諸君の活躍もまためざましいものがありました。今回の新しいうねりの中でも、同じような気運を私は感じます。今宵の演奏会にも、私はきっと、私がかつて学生時代に感じていた感動を心に刻みこむことが出来ることでしょう。「人間の声の集まりが織りなす肌目細かい音楽性は、器楽のそれとはまた異ったものを持っている」ことを、時々我々は忘れがちですが、仮に何の楽器もない荒野に何人かの人々がいて合唱をした時、心にしみわたるハーモニーは何ものにも代え難いなぐさみをそれらの人々の心に伝えて来た筈です。激動の時代に、こうした貴重な魂の表現方法を、いつまでも忘れずに、身につけておきたいものです。

今日参加されるみなさんがたの今後のご活躍と演奏会のご成功を祈ります。

合 同 演 奏

男声合唱組曲「富士山」

多田武彦

組曲「富士山」は私の第2番目の作品である。

処女作「柳河風俗詩」に対する清水先生の評は、「なるほど歌い易く美しい曲だが、男声合唱としてはちょっと優しすぎるし、もっと音域もたっぷりを使い、壮大な曲想のものを書くべきだ」ということであった。

2年後私が25才のとき出来たのが「富士山」であるが、はりきりすぎたせいか、グリークラブ泣かせの難曲になってしまった。にもかかわらず、永年にわたって、大学グリークラブ等で精力的に歌いつづけられて来たのは、やはり日本人の魂に通ずる「富士山」というテーマと、草野心平先生の詩の見事に助けられたからだと思っている。